

第3分科会 研究課題「教育環境整備に関する課題」

研究主題「児童生徒が安心して学ぶ魅力ある学校づくりのための教頭の関わり」 ～ 教頭間の連携による教育環境整備の在り方を通して ～

提言者 都城市立志和池小学校 佐田 重真

1 主題設定の理由

学校と家庭及び地域社会との連携は、「信頼される学校」「開かれた学校」「特色ある学校」「地域と共にある学校」を支える環境づくりのために必要である。また、校区の幼・保・小・中・高・特別支援学校が積極的に情報を共有して協力体制をとっていくことも重要となる。それに対して、教頭がどう関わっていくかが重要な課題といえる。

都城市では、コミュニティースクール（学校運営協議会）を通して「地域とともにある学校」を目指している。また、小中一貫教育による「すぐれた知性」「豊かな心」「たくましいからだ」「ふるさと教育」の推進が図られており、地域社会との連携に大きな役割を果たしている。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や自然災害への対応等、学校の実情に応じた防疫・防災体制を整えていくことは喫緊の課題である。さらに、児童生徒の安全確保のため、登下校の事件事故の防止、学校施設の安全管理も必要不可欠である。

今後、ICT機器の活用やプログラミング学習の実施により、教材教具・教育機器の整備充実が急速に進められることが考えられ、施設・設備の効果的な活用も教育環境整備の大きな課題となってくる。

このように、教育環境整備についての課題は多岐にわたっており、その課題に対応するために教頭に求められる役割は大きい。各学校では、実態や環境に応じた取組がなされており、これらの課題に効果的な手立てとなるものも多々あると考えられる。

そこで本地区では、各学校の環境整備の有効な情報や手立てについて、学校間で共有や連携を図り、効果的に活用できるよう教頭が積極的に役割を果たすことで、迅速かつ効果的な教育環境整備を行うことができると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

教頭が、自校の教育環境整備の課題や現状を把握し、課題解決や環境整備を組織的に進めることができるよう、隣接校や地域の情報を教頭間で共有し活用できる体制づくりを通して、情報化社会における教頭として果たす役割を考える。

3 研究の概要

(1) 研究計画

【令和2年度】

- 研究の方向性の決定
- 研究主題・副題の決定
- 研究内容の確認
- 教育環境整備の現状把握

【令和3年度】

- 課題の共有と連携体制の構築
- 教頭間の連携による具体的実践

【令和4年度】

- ICT活用による教頭間情報共有
- ICT活用による保護者・地域との連携

(2) 研究内容

- ① 学校運営協議会の取組の推進
- ② 防災・防疫の取組
- ③ 学校におけるICT活用の推進
- ④ ICT活用による情報共有・情報発信

4 研究の実際

(1) 学校運営協議会の取組の推進

【学校運営協議会の計画と内容】

- 年間5回程度実施し、学校の現状と課題、運営方針の説明、授業や行事の参観を実施。
- 〈小中合同〉取組の情報交換（沖水）を実施。
- 学校評価報告の検討と学校への助言や提言

【学校応援団としての取組】

- 事業所や施設との交流の推進、外部講師としての授業やキャリア教育への協力
- 高校入試に向けた面接指導、家庭科や生活科、総合的な学習の時間等の学習支援の依頼
- 地域人材の活用を図るためコーディネーターの役割や実働組織としての位置付け
- 安全指導（各地区の巡回指導）や職員会時の校内見守り、花ボランティア等の依頼

【教頭としての役割】

- 職員への説明と周知・共通理解促進
- 地域と学校職員をつなぐ窓口としての役割
- 委員への、学校評価結果の公開や学校だよりの発行による理解促進

○協議会以外で機会を捉えての自宅等訪問によるよりよい関係づくり

(2) 防災・防疫の取組

【防災・安全への校内での対応】

○年間4回程度の避難訓練を実施（寮生活がある学校では、毎月訓練を実施）

○危機管理マニュアルの見直しや修正等による児童生徒の安全確保

○メール配信システムによる迅速な情報発信

【防疫（新型コロナウイルス感染拡大防止）】

○感染症防止対策の徹底（マスク着用、登校時の検温、消毒液の設置と手指消毒）

○参観日の日程を工夫し、保護者の入れ替わりの時間を確保して実施

【地域との連携】

○2次避難所に指定されており、地区住民と協力し炊き出し訓練を実施

○月1回の「見守りの日」に、地域が主体となって、登下校の見守りを実施



【教頭としての役割】

○メール発信や文書の配付により家庭への連絡を早急に行う。

○地域や学校外の組織との連携時に学校側の窓口となつての対応や調整をする。

○校内外の危険箇所について、学校長への報告や担当職員との相談を行い、迅速に対応する。

(3) 学校における ICT 活用の推進

【環境整備の状況及び活用】

○1人1台端末活用、家庭への持ち帰り運用

○感染症対策のため、訪問できない福祉施設等とのオンラインでの交流

○ICT活用研修の充実

○AIドリルやデジタル教科書の活用の推進

【教頭としての役割】

○担当職員を中心に進めていくことになるが、個人情報取扱やセキュリティ面の課題についての指導・助言

○ICT活用に対する職員の不安解消や、学級間や学校間でICT活用の環境に差が出ないような対策を進める

(4) ICT活用による情報共有・情報発信

【教頭間情報共有】

○教頭専用の Google Classroom 作成

○ICT関連の情報や各校の取組状況に関する情報のアーカイブ化

【保護者・地域との連携】

○市で導入された sigfy（メール配信システム）の積極的活用

○学校發文書のデジタル化推進

【教頭としての役割】

○Googleドライブ及びGoogle Classroomにて志和地・沖水地区小中学校におけるローカルな教頭間の情報の共有を推進する。

○学校發文書のデジタル化を進め、印刷配布業務の軽減を図り、教頭を含む職員の負担軽減に努める。

5 成果と今後の課題

コミュニティースクール（学校運営協議会制度）について情報交換を行うことで、地域との連携による支援体制の充実につながり、教育環境整備が進められてきている。しかし、感染症対策のため、これまでの教育活動計画の縮小や変更をせざるを得ない状況もある。しかし、ICT活用による外部施設との交流に取り組む学校もあり、コロナ禍であっても教育活動の継続と充実へつながる方策と言える。ただし、職員にどの程度のリテラシーがあるかに左右されるため、研修の充実とまずはやってみるという実践第一の雰囲気作りが重要である。

学校間で情報担当の職員同士の連携ができる体制もできつつあり、職員の負担軽減と学校間のICTに関する格差解消にもつながっている。

教頭間の情報共有については、GoogleドライブやGoogle Classroomと校務支援システムC4thの使い分けについて整理し、より効果的な運用について考えていく必要がある。